

日本在宅医療連合学会学術大会
2025.06.14

地域に根ざす在宅医療の啓発と共創 市民参加型活動の実践とその戦略

桜新町アーバンクリニック
遠矢純一郎

日本在宅医療連合学会

COI開示

発表者名 遠矢 純一郎

発表内容に関連し、発表者に開示すべき
COI関係にある企業等はありません

世田谷区の概要

- 東京23区中の西南端に位置
- 人口 923,210人、高齢化率 20.4%
- 高齢者独居率 40%



世田谷区政概要 2024より引用



桜新町アーバンクリニック

プライマリ・ケアを中心に、地域に根ざした医療とケアの多職種チームで幅広い病気や困りごとに対応しながら、生活と人生を支える

所在地

東京都世田谷区

外来診療

プライマリケア・家庭医
心療内科

在宅医療

機能強化型在宅診療（連携型・病床あり）
在宅緩和ケア充実診療所
患者数 500名（居宅 400名、施設 100名）
看取り数 170件/年（在宅看取り率 87%）

訪問看護

利用者数 120名
医療保険 29% 特定管理加算 25%
ターミナケア 30件/年

併設事業

桜新町ナースケア・ステーション（訪問看護）
桜新町ナースケア・プランニング（居宅介護支援）
ナースケア・リビング世田谷中町（看護小規模多機能）
世田谷区認知症在宅生活サポートセンター（区の受託事業）

従業員数

従業員数約86人
医師10人（常勤7人）、看護師28人、作業療法士4人、
薬剤師、社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士、
介護スタッフ、医療事務、総務、ドライバー

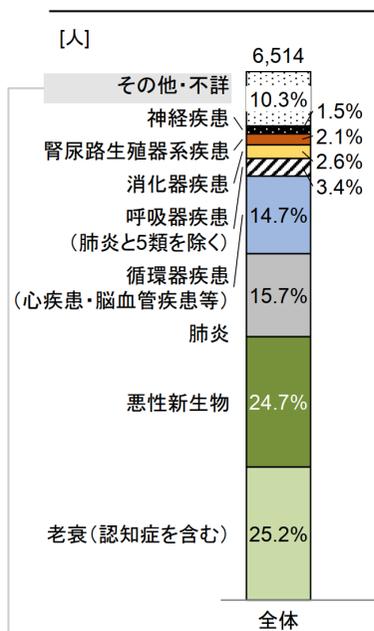


世田谷区の死亡小票を分析し、現状を把握

2023年 死亡場所 2023年に看取られた世田谷区 在宅(自宅・施設)看取りの実施状況 一区内在宅療養支援診療所・病院届出区分別

病院では肺炎が2割強、自区内在宅看取りの7割強を機能強化型在支診・在支病が看取っている。在宅看取りを実施型一般)・特養では老衰がした届出なしの区内医療機関が減少した他は、特筆すべき経年変化はみとめられない。

↘ 2022年から減少 ↗ 2022年から増加



新型コロナウイルス感染症および関連死による死者66名を含む(参考)R4:121名

| 届出の種類 | 届出数 | 在宅看取り実施医療機関数(※1) | 在宅看取り件数(※2) |
|------------------|--------|------------------|------------------|
| 2023年 | | | |
| 世田谷区内 | | | |
| 機能強化型 在支診・在支病 | 59か所 ↗ | 54か所 ↗(91.5% ↘) | 1,340件 (74.7% ↗) |
| 機能強化型 在支診 | 56か所 ↗ | 51か所 ↗(91.1% ↘) | 1,281件 (71.4% ↘) |
| 機能強化型 在支病 | 3か所 ↘ | 3か所 (100.0% ↗) | 59件 (3.3% ↗) |
| 機能強化型以外の 在支診・在支病 | 87か所 ↗ | 43か所 ↘(49.4% ↘) | 228件 (12.7% ↗) |
| 届出なし | — | 33か所 (—) ↘ | 152件 (8.5% ↘) |
| 医療機関名不詳 | | | 75件 (4.2% ↘) |
| 合計 | — | 130か所 | 1,795件 |
| 世田谷区外 | — | 289か所 (—) ↗ | 905件 |
| 2022年 | | | |
| 世田谷区内 | | | |
| 機能強化型 在支診・在支病 | 57か所 | 53か所 (93.0%) | 1,318件 (74.2%) |
| 機能強化型 在支診 | 53か所 | 50か所 (94.3%) | 1,282件 (72.1%) |
| 機能強化型 在支病 | 4か所 | 3か所 (75.0%) | 36件 (2.0%) |
| 機能強化型以外の 在支診・在支病 | 82か所 | 44か所 (53.7%) | 203件 (11.4%) |
| 届出なし | — | 47か所 (—) | 164件 (9.2%) |
| 医療機関名不詳 | | | 92件 (5.2%) |
| 合計 | — | 144か所 | 1,777件 |
| 世田谷区外 | — | 229か所 (—) | 918件 |

※1:%値は届出医療機関数に対する割合を示す
 ※2:%値は区内医療機関による在宅看取り総数に対する割合を示す

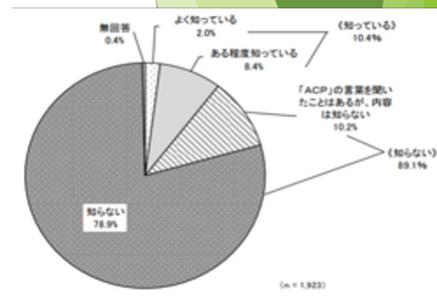
世田谷区の地域課題

1. 希望する場所で最期まで暮らし続けることが難しい

自宅で最期を迎えたい割合が60%以上に対して
自宅・老人ホームでの死亡率は約40%にとどまる

2. ACPの認知度が低い。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)、人生会議
について8割の区民が知らない



ACP・在宅医療の啓蒙活動方針

- ▶ **医療観の転換**：老年医療、死生観、死にゆく過程、看取りについての、地域の実際や課題を知っていただく
- ▶ **世代を超えて**：当事者（高齢者）だけではなく、様々な年齢層にアプローチして、地域や家庭で考える機会にする
- ▶ **自分で考える**：一方的なレクチャーでは無く、参加者同士の意見交換を通じて、様々な価値観や思いがあることを学ぶ
- ▶ **多様な視点**：地域・人的資源を活用し、多様な視点からの啓蒙活動を行う

ACPの啓蒙活動 2023-2024

▶ 世田谷区の事業として

解説

「自分らしくありたい」という 願いをどうやって伝えよう？

いつか自分の思いや願いを話せなくなる時がやってきます。それは、誰にでも訪れる自然な変化です。あなたが〈何が好きか、嫌いか〉とか、〈いつも人に囲まれていたいのか、ひとりの時間を大切にしたいのか〉とか。一見些細に思えることも、その時を心地よく過ごすために大切なこととなります。

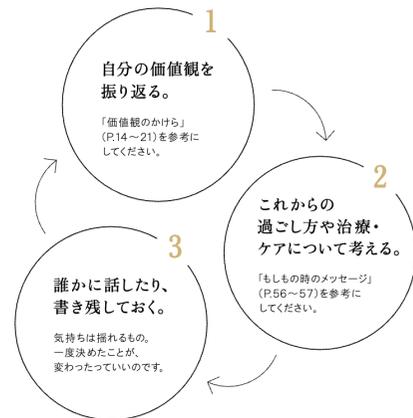
●自分の話をしておくとよい人は？

| | |
|------------|-----------------------------|
| 家族などのパートナー | あなたが話しやすい人、信頼している人など |
| 介護に関わる人 | あんしんすこやかセンター、ケアマネジャー、ヘルパーなど |
| 医療を担当する人 | かかりつけ医、在宅医、訪問看護・リハビリスタッフなど |

●これって、誰のため？どんなときに役立つの？

| | |
|---|---|
| あなたのために 意識がなくなり、自分のことを決められないとき、あなたの決断を尊重します。 | 家族などのパートナーのために 家族があなたに代わって決めるとき、負担を感じすぎずに決められます。 |
| 介護に関わる人のために 介護サービスの利用を含め、日常生活の過ごし方を一緒に考えます。 | 医療を担当する人のために あなたの病状だけでなく、生き方を尊重し、医療の方針を考えます。 |

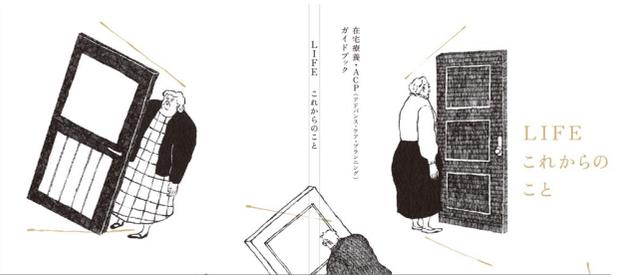
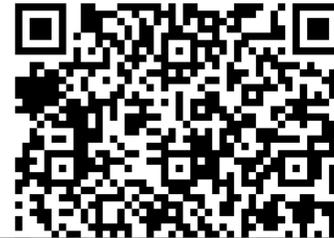
どんな内容を、どんな風に
話したらいいんだろう？



考え方は、変わることであります。何度も繰り返し話し合ひましょう。

LIFE 01 / 「自分らしくありたい」という願いを誰に話せばいいんだろう？

13



価値観の かけら

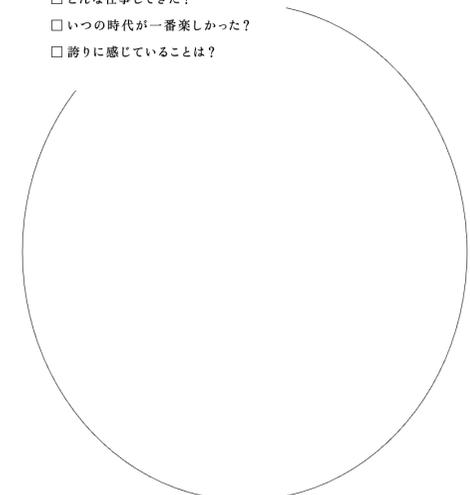


「将来、どんな医療やケアを望みますか？」
「最後の時間はどう過ごしたいですか？」
と聞かれても、何から考えたらいいのか…。
まずは、あなたのこれまでのことや、
いまの考えを言葉にしてみましょう。

書いたり、話したりすることで、
気持ちや意思の整理につながります。
記入日をメモしておけば、
繰り返し使え、振り返ることも役立ちます。

ひとりでゆっくり、家族とわいわい、
医療・介護者とじっくり。
使い方は自由です。

- 今まで住んだことのある土地は？
- どんな仕事してきた？
- いつの時代が一番楽しかった？
- 誇りに感じていることは？



今までの自分
見返せば
箱ぎっしりの
宝物

LIFE 01 / 「自分らしくありたい」という願いを誰に話せばいいんだろう？

15



ACP啓蒙活動の広がり

若い世代への広がり – 区内大学との連携

経営学部市場戦略学科の学生が、社会課題のインフォグラフィック制作の課題として「ACP普及啓発のためのポスター」を作成

「在宅療養講演会・シンポジウム」会場にて展示され、来場した区民による投票で選ばれた3つが区内各地で掲示された



ACPについてのレクチャー



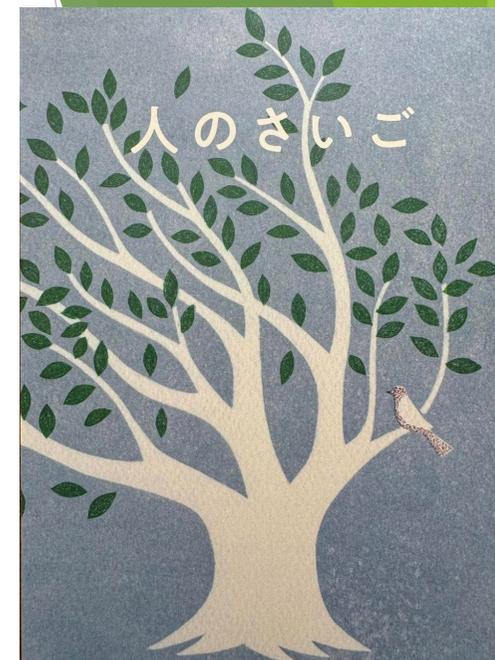
アイデア発表の様子



全21作品のポスター

「人のさいご」冊子の制作、販売 2024.07

- ▶ 終末期、死に至る過程に生じる身体の変化について分かりやすく解説した本（50ページ）
- ▶ 当院の看護師らが中心となって、1年がかりで制作
- ▶ 患者さん本人が読めるような内容を目指した
- ▶ 銅版画家によるイラスト
- ▶ 1冊550円、初版2000部があっという間に完売



書籍「人のさいご」紹介サイト

写真展「ぐるり。」 訪問看護師・写真家 尾山直子個展

- ある老人の最期の日々を綴った写真+日記で構成

かつて存在していた、暮らしのなかにある「老いと死」。
そのプロセスを日々の生活のなかで目の当たりにし、向き合うことは、言葉や知識だけではなく、体感としての生きた学びがあったのではないか。

その姿や、質感や、動きや、反応や、感覚や、眼差しの変化。
人間の生命がどうはじまり、育まれ、終わり、そしてどうつながっていくのか。老いていのちを閉じようとしている人は、全てを使って、次の世代へ伝えている。



2021年12月8日(水)～12日(日)
10:00～18:00 入場無料(観覧料1000円)

開催会場
清川泰次記念ギャラリー 内 区民ギャラリー
〒157-0066 東京都目黒区4-32-17
TEL.03-3448-1202 FAX.03-3448-0209
<http://www.kiyokawazai.jp>

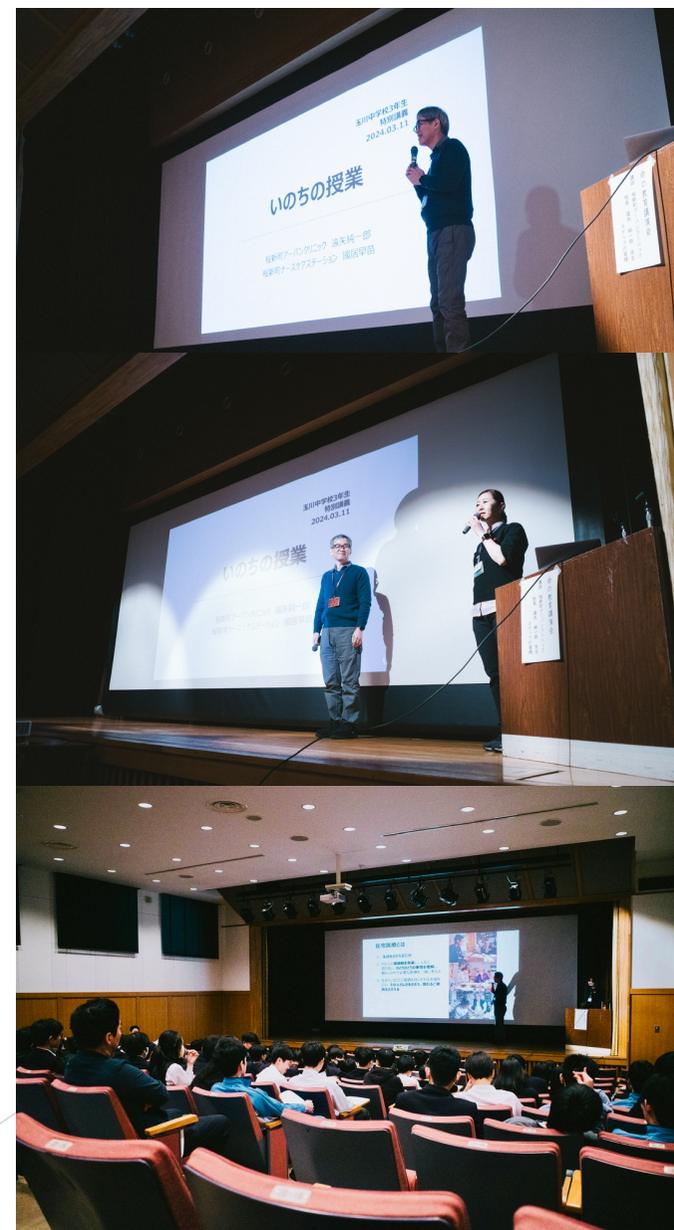
「ぐるり。」は、訪問看護師として、高齢者の最期の日々を綴った写真と日記で構成された写真展です。尾山直子さんは、訪問看護師として、高齢者の最期の日々を綴った写真と日記で構成された写真展です。尾山直子さんは、訪問看護師として、高齢者の最期の日々を綴った写真と日記で構成された写真展です。

尾山直子「ぐるり。」



いのちの授業 2024.03.11

- ▶ 玉川中学校 3年生100名への「いのちの授業」
- ▶ いのち、病気、医療、死について
- ▶ 何歳まで生きていますか？
- ▶ 超高齢社会日本における医療のあり方
- ▶ 在宅医療、訪問看護の実際
- ▶ 日本の社会保障、少子高齢化問題



当院のさまざまな地域活動

アーバン・地域食堂

- ▶ 地域の高齢者を対象に、月2回金曜に定期開催
- ▶ 高齢者が30-40名、関係者が10名
- ▶ 体操、講演、食事、歓談

こかげカフェ（遺族会）

- ▶ コロナ禍で途絶えていた遺族会を再開
- ▶ 在宅看取りされたご家族、20名前後
- ▶ わかちあい、音楽、語らいの時間

認知症ピアサポート

- ▶ 認知症外来通院患者さん6-7名
- ▶ 患者さん同士の語らい（家族は別室で）
- ▶ 診断後支援のひとつとして



在宅医療啓蒙活動における5つの戦略的要素

1. 多層的アプローチ設計

- ▶ 対象層の細分化：市民、遺族、専門職、若年層など
- ▶ 入口の多様化：食、アート、学校など医療と直結しないテーマで

2. 双方向性の徹底

- ▶ 専門職間の交流：事例ベースのワークショップで、自分で考え、つながる機会に
- ▶ 市民参加型デザイン：当事者、市民の体験談を主軸に据える

3. データドリブンな改善

- ▶ 死亡小票分析：在宅看取りや医療資源のファクトを把握、活動効果の検証にも

4. 地域資源の最適活用

- ▶ 教育機関との連携：大学ゼミや学生とのコラボで、若い創造力を啓発ツールに活用
- ▶ 宗教施設の活用：中立的な場を利用して、経済性と継続性を維持

5. 「参加→共感→発信」の好循環

- ▶ 参加者を発信者に転換することで、啓蒙活動の効果が持続・発展していく